

家庭菜園で見られる蟲たち

〔ネキリムシ〕

朝、せっかく育てた野菜や花の茎がポキンと折れているのを見つけたら、その犯人はおそらくネキリムシです。ネキリムシ(類)とは一般にはタマナヤガとカブラヤガの幼虫のことを言う場合が多く、成虫は3月下旬頃から活動を始め、年間3～4回発生して初冬頃まで活動し、冬期には幼虫が土中で越冬します。1匹の産卵数は1000～2500個で、主に土壌に接した部分に1個ずつ産卵します。ヨトウ類の様にまとめて産めば楽なのに(防除も)こんなに多くの卵を1個ずつ産むのはさぞかし大変なことでしょう。幼虫は雑食性で多くの植物を加害し、通常は6令で蛹になりますが、エサの条件が悪いと10令を経過することもあります。そのため、とんでもなく大きな幼虫に出会うこともたまにあります。

幼虫は若齢期には地表面に生息して茎葉部を加害しますが、3齢以降は土中に潜り、夜になると地上に現れて地際部の茎の部分を切断するなど、野菜類に大きな被害を与えます。ネキリムシと呼ばれていますが、根を加害することはほとんど無く、「クキ」キリムシと呼んだ方がいいのかもしれない。

雑草が繁茂すると増加しやすいので、ほ場周辺の除草をしっかり行うのが防除のポイントです。

